

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年11月11日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日）
【会社名】	株式会社デジタルアドベンチャー
【英訳名】	Digital Adventure, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 李 命学
【本店の所在の場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝四丁目5番10号
【電話番号】	03(6809)6118
【事務連絡者氏名】	管理本部長 大山 智子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期 連結累計期間	第45期 第3四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自平成26年1月1日 至平成26年9月30日	自平成27年1月1日 至平成27年9月30日	自平成26年1月1日 至平成26年12月31日
売上高 (千円)	1,735,376	2,061,580	2,496,780
経常利益又は経常損失 () (千円)	53,310	29,886	37,240
当期純利益又は四半期純損失 () (千円)	21,630	62,344	67,051
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	21,630	62,344	67,051
純資産額 (千円)	1,749,125	1,778,658	1,838,989
総資産額 (千円)	2,381,985	2,382,437	2,375,770
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	0.40	1.15	1.23
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.6	73.7	76.5

回次	第44期 第3四半期 連結会計期間	第45期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日	自平成27年7月1日 至平成27年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円)	1.32	0.12

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第44期における潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。第44期第3四半期連結累計期間及び第45期第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当社は、平成27年9月18日開催の取締役会において、持分法適用関連会社のKNTV株式会社（以下、「KNTV社」という。）と、合併に向けた協議を進めるための基本合意書を締結することを決議し、同日付けで、当該基本合意書を締結いたしました。

なお、詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載のとおりであります。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策を背景に、企業収益や雇用状況は回復傾向にありますが、海外における欧州金融不安や中国経済の減速懸念等により、依然として先行きが不透明な状況にあります。

このような経営環境の中、当社グループの当第3四半期連結累計期間においては、引き続き所属俳優をはじめとしたファンミーティングやドラマイベントの開催、アーティスト・ドラマ関連商品の販売、ならびに前連結会計年度より進めております大型ドラマ版權の放送・DVD事業化などを行ったことで、売上高は大きく伸ばしております。

一方、利益面においては、各プロジェクトでの利益管理の徹底を図ったものの、第2四半期連結累計期間でのプロモーション費用や商品在庫の評価損等計上の影響もあり、当第3四半期連結会計期間で販売費及び一般管理費を吸収することができませんでした。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20億61百万円（前年同期比18.8%増）、営業損失31百万円（前年同期は営業損失66百万円）、経常損失29百万円（前年同期は経常損失53百万円）、四半期純損失62百万円（前年同期は四半期純損失21百万円）となっております。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（物販事業）

第2四半期連結累計期間に引き続き、イベントでのグッズ販売等大型案件がなかったこと、また商品在庫の評価損計上など原価が嵩んだこと等により、売上高および利益とも減少しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は2億33百万円（前年同期比35.5%減）、セグメント損失は54百万円（前年同期は、セグメント利益4百万円）となっております。

（ライセンス&メディアコミュニケーション事業）

所属俳優キム・スヒョンが「ドラマ「プロデューサー」ファンミーティング2015 in Japan」を、台湾No.1俳優ジェリー・イエンが「ジェリー・イエン 2015ファンミーティング「夏祭り」」などのイベントを開催しております。新人アーティスト発掘・育成事業第1弾である原宿発がけっばちボーイズグループBEE SHUFFLEは、7月にヨーロッパ最大級の日本文化フェスティバル“Japan Expo”（開催地：フランス）でのライブ出演、9月に3rdシングル「LOVE YOUR SMILE」を発売するなど話題を提供してまいりました。

D A T Vでは、大型ドラマとしては、韓国の同時間帯視聴率1位となった「優しくない女たち」、所属俳優チュ・ジフン主演最新作「仮面」、中国ドラマ「風中の縁（えにし）」など話題の作品を続々日本初放送し、また所属アーティスト キム・ヒョンジュンの入隊前ラストライブを独占放送しております。さらにドラマ関連イベント（上記、ドラマ「プロデューサー」は、キム・スヒョン主演最新作でD A T Vでの放送決定）を開催し、新規加入促進を図ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は18億14百万円（前年同期比33.6%増）、セグメント利益は20百万円（前年同期は、セグメント損失69百万円）となっております。

（その他事業）

その他事業のうち、デジタルコンテンツ配信において、前連結会計年度に業務委託料の改定があったため売上高は減少したものの、原価の見直しを図った結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は14百万円（前年同期比12.6%減）、セグメント利益は1百万円（前年同期は、セグメント損失0百万円）となっております。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第3四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える新たな要因等は発生しておりません。当社グループが対処すべき課題の解決に努め、継続的に利益が確保できる企業体質を目指し、適切な事業投資の判断により財務体質強化を図ってまいります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	54,392,638	54,392,638	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 1,000株
計	54,392,638	54,392,638		

(注) 提出日現在の発行数には、平成27年11月1日からこの四半期報告書提出日までの間に、新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月30日	-	54,392,638	-	3,999,492	-	-

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 79,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,213,000	54,213	
単元未満株式	普通株式 100,638		
発行済株式総数	54,392,638		
総株主の議決権		54,213	

(注) 「単元未満株式」欄には、自己株式676株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)デジタルアドベンチャー	東京都港区芝 四丁目5番10号	79,000	-	79,000	0.15
計		79,000	-	79,000	0.15

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年1月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	770,708	326,930
売掛金	224,973	228,217
コンテンツ	1,354	808
商品	5,561	1,072
関係会社短期貸付金	100,000	100,000
前渡金	403,139	953,517
その他	76,144	98,431
貸倒引当金	102	107
流動資産合計	1,581,779	1,708,870
固定資産		
有形固定資産	13,406	15,166
無形固定資産	28,376	29,013
投資その他の資産		
投資有価証券	520,147	485,668
関係会社長期貸付金	200,000	100,000
その他	118,136	125,295
貸倒引当金	86,077	81,577
投資その他の資産合計	752,207	629,386
固定資産合計	793,990	673,566
資産合計	2,375,770	2,382,437
負債の部		
流動負債		
買掛金	370,049	173,920
前受金	83,869	288,724
その他の引当金	6,285	6,284
その他	72,960	131,946
流動負債合計	533,165	600,876
固定負債	3,616	2,902
負債合計	536,781	603,778
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,999,492	3,999,492
利益剰余金	2,148,884	2,211,228
自己株式	32,416	32,425
株主資本合計	1,818,191	1,755,838
新株予約権	20,798	22,820
純資産合計	1,838,989	1,778,658
負債純資産合計	2,375,770	2,382,437

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1,735,376	2,061,580
売上原価	1,412,338	1,669,414
売上総利益	323,038	392,165
販売費及び一般管理費	389,486	423,385
営業損失()	66,447	31,220
営業外収益		
受取利息	8,859	5,216
為替差益	5,339	-
貸倒引当金戻入額	3,600	4,500
その他	1,164	119
営業外収益合計	18,963	9,836
営業外費用		
持分法による投資損失	5,736	5,535
為替差損	-	2,764
その他	89	202
営業外費用合計	5,825	8,502
経常損失()	53,310	29,886
特別利益		
関係会社株式売却益	7,382	-
新株予約権戻入益	40,113	-
その他	526	-
特別利益合計	48,022	-
特別損失		
減損損失	1,183	133
持分変動損失	10,275	29,104
その他	839	79
特別損失合計	12,298	29,317
税金等調整前四半期純損失()	17,586	59,203
法人税、住民税及び事業税	4,044	3,140
法人税等合計	4,044	3,140
少数株主損益調整前四半期純損失()	21,630	62,344
四半期純損失()	21,630	62,344

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	21,630	62,344
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	21,630	62,344
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	21,630	62,344

【注記事項】

(追加情報)

当社は、平成27年9月18日開催の取締役会において、持分法適用関連会社のKNTV株式会社との間で合併基本合意書を締結することを決議し、同日付で合併基本合意書を締結しております。

合併基本合意書の概要は、以下のとおりであります。

1. 企業結合先の名称及び事業の内容

企業結合先名称 KNTV株式会社

事業の内容	有料放送サービス事業等
資本金の額	983百万円
純資産の額	1,271百万円 (平成26年12月31日現在)
総資産の額	1,931百万円 (平成26年12月31日現在)

2. 企業結合を行う主な理由

両社の有料放送事業に関する人的、技術的及びコンテンツ調達のリソースを結集し、2チャンネル化による顧客基盤の強化、並びに顧客満足度の高いサービスの拡充を図ることで、有料放送事業における韓国をはじめとしたアジア全域におけるコンテンツのハブチャンネルを目指し、同業他社との競争優位性を確立することを目的とする。

3. 企業結合日

平成28年7月1日(予定)

4. 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、KNTV株式会社を消滅会社とする吸収合併方式。

5. 結合後企業の名称

株式会社デジタルアドベンチャー

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
減価償却費	13,216千円	12,418千円
のれんの償却額	5,358	-

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライツ&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	361,125	1,358,198	1,719,323	16,053	1,735,376
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	361,125	1,358,198	1,719,323	16,053	1,735,376
セグメント利益又は損失()	4,005	69,983	65,977	469	66,447

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	65,977
「その他」の区分の損失()	469
四半期連結損益計算書の営業損失()	66,447

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	物販	ライツ&メディア コミュニケーション	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	233,091	1,814,464	2,047,555	14,024	2,061,580
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	233,091	1,814,464	2,047,555	14,024	2,061,580
セグメント利益又は損失()	54,014	20,993	33,021	1,801	31,220

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	33,021
「その他」の区分の利益	1,801
四半期連結損益計算書の営業損失()	31,220

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	0円40銭	1円15銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	21,630	62,344
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	21,630	62,344
普通株式の期中平均株式数(千株)	54,313	54,313

(注)前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額が計上されているため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月11日

株式会社デジタルアドベンチャー

取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 公認会計士 古藤 智弘 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 増田 涼恵 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルアドベンチャーの平成27年1月1日から平成27年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年1月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルアドベンチャー及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。